

別紙

「DESIGN WEEK KYOTO」がきっかけとなり、コラボレーションを進める企業と製品概要紹介
～コラボレーションにて完成した釵（サイ）を実際使用し、演武を披露致します～

(Zoomによるオンライン配信も予定しております)

【出演者】

- ・沖縄拳法空手道六代目師範 山城美智氏
- ・荒賀道場・荒賀龍太郎氏
- ・沖拳会 関西統括 酒井 航氏
- ・BEAM代表・沖拳会 京都支部長 向井正志氏

(1) 企業概要

①将大鍛刀場

代表者	刀匠将大：中西 裕也
事業内容	日本刀制作
所在地	京都府亀岡市本梅町西加舎石敷32-1
電話番号	0771-56-8502
ホームページ	https://morinokyo.jp/masahiro/
担当者	中西 裕也

②株式会社ナンゴ

代表者	南郷 真(ただし)
事業内容	金属全般精密機械加工及び治具・省力化装置の設計製作
所在地	京都府宇治市白川川上り谷80番地36
電話番号	0774-28-3141
ホームページ	https://www.nango-kyoto.co.jp/
担当者	プロジェクトグループ室 グループ長 奥野 英子

(2) 製品開発までの経過

将大鍛刀場、(株)ナンゴは、京都府内で業種は異なるが製造業を営んでいる。

刀匠将大(将大鍛刀場)は、日本刀の刀鍛冶。その存在は唯一無二とも言われている。

一方、(株)ナンゴは金属精密機械加工を「強み」としている。

互いに製造業ではあるが、全く工法が異なり、また顧客層も違うことから、今まで交流する機会は全くなかった。その両社が知り合うきっかけとなったのが、【DESIGN WEEK KYOTO】「DESIGN WEEK KYOTO (以下「DWK」という。)」である。

DWK2022プロジェクトメンバーである京都信用金庫亀岡支店下川氏が行き来していた将大鍛刀場で、ある案件について頭を悩ませていたことを知り「次は亀岡の企業様となんかコラボしたいなあ～」と交流会で話していた(株)ナンゴの奥野氏のことを思い出したことから始まった。

両社は、【DWK】の参加をきっかけで交流を深め、ネットワークを新たに形成され、この度、「琉球古武術で使用される武具の1つ<釵(さい)>」の復元を共同にて製作する運びとなった。

(3) 具体的な流れ

琉球古武術が歴史に現れ始めたのは、今から七百年ほど以前であり、釵はその琉球古武術で使用される武具の1つである。時代と共に模造刀のように、合金製で出来ているものが出回っているが、沖縄拳法空手道六代目師範 山城美智氏をはじめ、沖縄拳法空手道で本来使用されている<釵>ではない。BEAM代表向井正志氏は、兼ねてから師範である山城氏から今持っている釵と同じもの(素材・重さ)が再現できないかと相談を受けていた。

2022年沖縄は本土復帰50周年という歴史的節目の年であり、向井氏は、自ら釵の製作に取り掛かるが全く製作できる気配がなく、将大鍛刀場での刀製作体験に行き、刀鍛冶の技術に啞然とする。そこで一から製作を刀匠将大にお願いすることにした。しかし<釵>を再現させるには、まずパーツごとの部品調達が必要であることに頭を悩ますことになる。

そのことをDWKプロジェクトメンバーの下川氏に話をしてみた。下川氏は、(株)ナンゴーの奥野氏に将大鍛刀場のことを伝え、奥野氏はその思いに答えるべく社内に持ち帰り、刀匠将大と(株)ナンゴーが<釵>復元に向けてのプロジェクトをスタートさせることとなる。

まず現物にて、刀匠将大と(株)ナンゴーは工法を研究し、図面を設計。まず、(株)ナンゴーが工作機械を駆使しパーツを製作。(※写真2)そのバラバラのパーツを刀匠将大がまず溶接作業を行い、成形していく。<釵>復元が自らが伝授された先達の技を、未来の刀鍛冶に伝える技術の一つとなり、それがまさに沖縄復帰50周年という記念すべき節目であることに気づくことになるのであった。

「DESIGN WEEK KYOTO」の参画企業同士が交流し新たなネットワークを形成、そして将大鍛刀場の伝授された先達の【技】と金属精密機械加工の【技】とが融合し、時を超えて、ここに<釵>が復元した。

2020年1月	【DESIGN WEEK KYOTO】に各社参画
2022年2月	【DESIGN WEEK KYOTO2022】オンラインにて工場を見学
2022年3月月初	<釵(さい)>復元に向けプロジェクトがスタート
2022年4月下旬	(株)ナンゴーより試作パーツを提示
2022年5月中旬	試作品完成
2022年6月～	釵の供給先の検討、武具袋の製作検討、他の古武術の武具の試作

